

実績ある医師に接し 網膜硝子体手術の道へ

患者がほぼ亡くなることなく、治療の経過が分かりやすいという理由から眼科へ進んだ古川真理子医師。網膜硝子体手術を専門とするようになったのも、現在勤務している総合上飯田第一病院で、日本の権威といえる医師が手術を担当していたことから、自然とそうなっていたという。「手術は映像を見るだけでは決して学べません。間近で数多くの症例を見られ、気になることがあればすぐに聞くことができる環境にあったことが、大きなきっかけでしょう」

そうした経緯で選んだこともあり、最初のうちはどこにやりがいを持てるか十分に自覚できていなかったが、診療を続ける中で、思っていた以上に人に喜んでもらえる分野であることを実感していった。「さまざまな中途障害の中でも、失明がもっとも辛いという声をよく聞きます。それだけに、人の助けがないと何もできなかった方が、手術によって視力が



社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院

眼科部長 **古川 真理子**

ふるかわ・まりこ ●医学博士。大津赤十字病院、員弁厚生病院勤務などを経て現職。日本眼科学会認定眼科専門医など

長年築き上げてきた信頼を受け継ぎ 次の世代へつなげていく

回復し、1人ですべてできるようになったことで非常に喜んで頂けるのです」

培ってきた信頼を 次の世代へつなげる

現在では古川医師が、同院で部長として眼科をまとめるようになり、日々多くの網膜硝子体手術に携わっている。最新設備が揃い、内科との連携体制があることが

ら、他院の紹介患者も多い。「網膜硝子体手術は目の奥まで触る特殊な分野ですが、チャンスがあったからこそ、ここまで続けられました。『眼の調子が悪くなってもこならなんとかしてもらえる』と、思っていただけるのはありがたいことです」と振り返る。

今まで受けてきた教育や、築き上げてきた信頼をムダにすることなく、次の世代につなげることが

今後の大きな目標だ。「今まで私が受け取ってきたことを、次の世代にも残していかなければならないと思っています。地域の方の当院への信頼をこれからも失わないようにしていきたいです」と、患者にとってメリットのある最新技術の導入などを通じて眼科医療のさらなる発展を目指すと共に、医師の教育にも積極的に取り組んでいる。

医学博士。大津赤十字病院、員弁厚生病院勤務などを経て現職。日本眼科学会認定眼科専門医など。



ふるかわ まりこ
眼科部長 古川 真理子

総合上飯田第一病院では、目の内
部を満たす硝子体や、目の奥にある
網膜に生じる疾患を治療する網膜硝
子体手術を20年以上前から手がけて
きた。その培ってきた経験に基づく手
術に加え、院内の内科と連携して、全
身疾患を抱える患者の手術や、失明
の大きな原因となる糖尿病網膜症の

最新機器で網膜硝子体手術を
2015年に576件実施



27ゲージシステムなどの最新機器が揃う手術室



社会医療法人愛生会

総合上飯田第一病院



診療受付時間(眼科): 月～金 8:30～11:30
水(第3週) 12:30～15:00

病床数: 236床
(一般病棟、地域包括ケア病棟)

〒462-0802 愛知県名古屋市区上飯田北町2丁目70番地 TEL.052-991-3111

20年以上の経験と親身な姿勢のもと 地域に網膜硝子体手術を提供

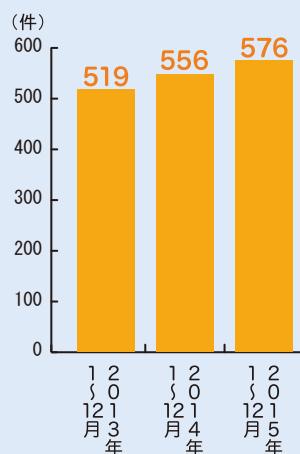
自覚症状の少ない段階の疾患も含め、患者が納得して治療を受けられるよう、丁寧なコミュニケーション

「一生のお付き合い」と考え
術前後も丁寧な対応を

と説明する古川真理子医師。
「最近では、黄斑
上膜の手術が増加しています。この
疾患は機器が進歩したことで、重症
化を防ぐために早期からの手術も積
極的に行うようになってきました」

患者の血糖値コントロールも可能。そこから愛知県外も含めた他院の紹介件数も多く、2015年だけでも576件と豊富な手術実績を持つ。
手術の対象となる疾患は、網膜剥離や硝子体出血、糖尿病性網膜症などさまざま。それらすべてに対応した上、新しい機器や術式を積極的に取り入れ、負担の少ない手術を追求しているという。「最近では、黄斑上膜の手術が増加しています。この疾患は機器が進歩したことで、重症化を防ぐために早期からの手術も積極的に行うようになってきました」と説明する古川真理子医師。
「患者さんとは一生のお付き合いになると考えています」と、古川医師は術後のフォローにも力を入れており、再発や反対側の目の疾患の予防、万が一の際の迅速な対応などを心がけてきた。こうした親身な姿勢はスタッフにも浸透しており、患者にとっても通院しやすい環境となっているという。これからも同院は地域に信頼される医療機関として、高度な眼科手術を提供し続ける。

網膜硝子体手術実績



瞳孔を開くことなく眼底を図れる検査機器など、一般の診療所で導入の少ない機器も活用